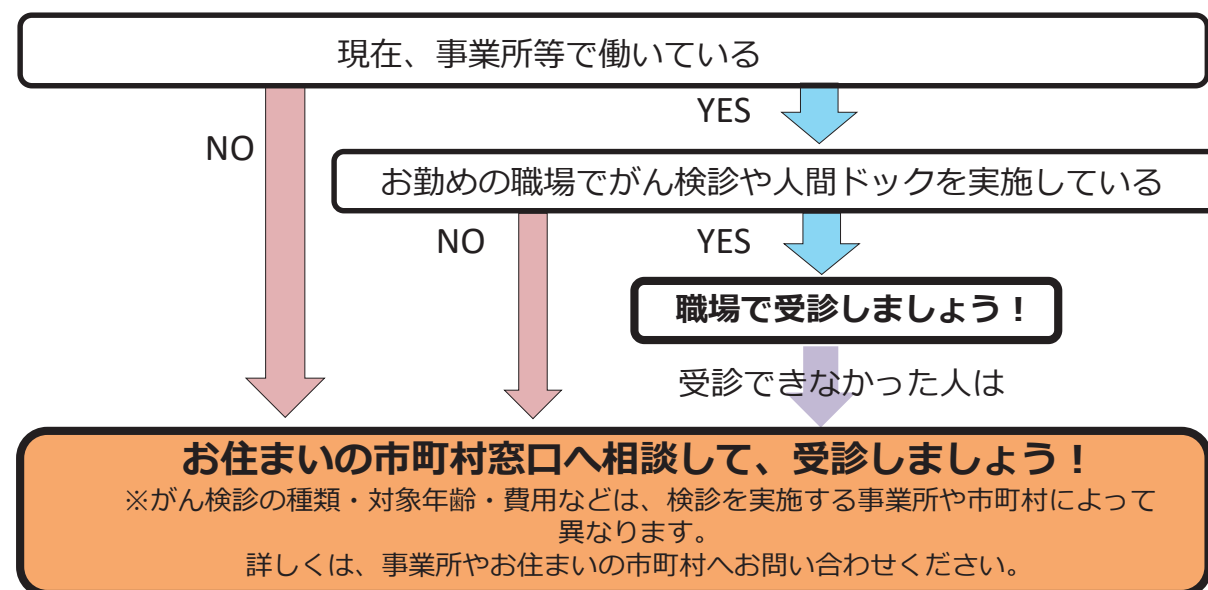


がん検診の受け方



検診結果が「**要精密検査**」になったら・・・

必ず精密検査を受診してください

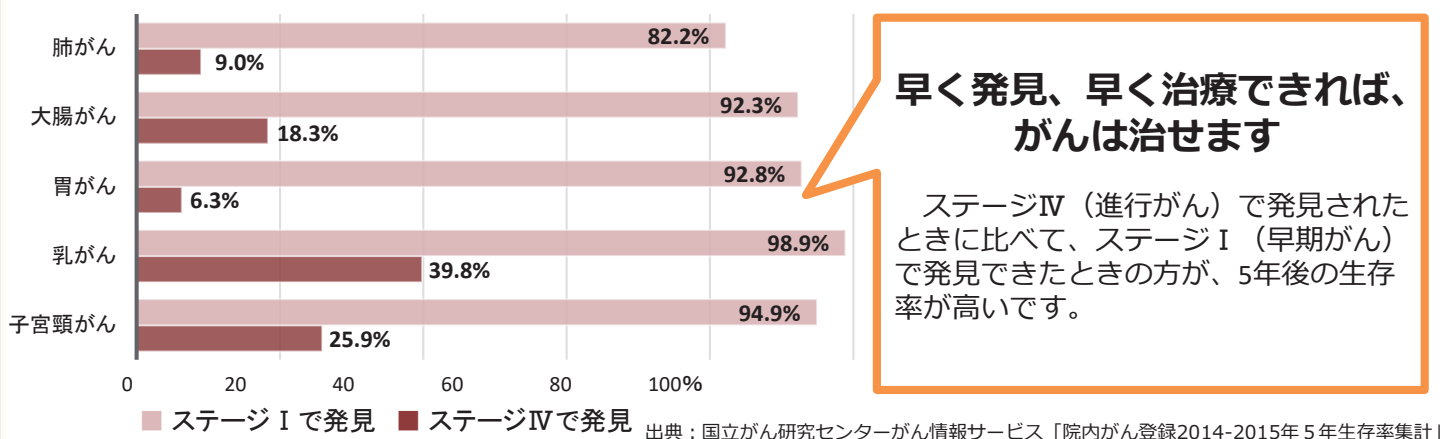
がん検診を受けた結果が「要精密検査」となった方は、精密検査を受診し、本当に異常があるかを調べる必要があります。

症状がないからと放置せず、必ず精密検査を受けるようにしましょう。

精密検査や治療を受けなければ、がん検診の効果が十分に発揮されません。

茨城県で2021年にがんと診断された方のうち、胃がん15.5%、大腸がん16.5%、肺がん16.8%、乳がん28.0%、子宮頸がん11.9%は、がん検診で発見されています。

出典：茨城県がん登録事業報告2021年集計



**早く発見、早く治療できれば、
がんは治せます**

ステージⅣ（進行がん）で発見されたときに比べて、ステージⅠ（早期がん）で発見できたときの方が、5年後の生存率が高いです。

お問い合わせ先

詳しい検診の日程や、申し込み方法、受付については、お住いの市町村保健センターへお問い合わせください。
市町村保健センターの一覧は、「がん検診担当窓口 茨城」で検索
または右記QRコードをご利用ください。



がんは、早期発見すれば 80～90%^{※1}が治ります。^{※2}

※1 肺がんは80%以上、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんは90%以上。

※2 ここでいう「治ります」とは、診断時からの5年純生存率（ネット・サバイバル）です。純生存率は、「対象となるがんのみが死因となる場合」を推計した生存率です。院内がん登録生存率集計報告書においても2014-2015年5年生存率から、相対生存率に代わりこの方法による純生存率が採用されています。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録生存率集計」（2015年診断例）5年ネット・サバイバル

ぜひ、この機会にがん検診を受けてください。

茨城県が推奨するがん検診の種類^{※1}

種 類	検 査 項 目 ^{※2}	対 象 年 齢	受 診 間 隔
胃がん検診^{※3}	胃エックス線検査 ^{※4} または 胃内視鏡検査	50歳以上 (X線のみ40歳以上も可)	2年に1回 (X線のみ毎年可)
大腸がん検診	便潜血検査(検便)	40歳以上	年1回
肺がん検診	胸部エックス線検査	40歳以上	年1回
乳がん検診	マンモグラフィ(市町村によっては超音波検査も選択できます)	40歳以上	2年に1回
子宮頸がん検診^{※5}	視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	年1回

※1 対象年齢や受診間隔は、お住いの市町村によって異なります。

※2 検診項目は問診を含みます。肺・乳がん検診の問診では必ずしも医師が対面で聴取する必要はなく、自記式の質問用紙に記入することで問診の代わりとしてよいことになっています。

※3 検査項目については、受診者がいずれか一方を選択します。

※4 当分の間、胃エックス線検査については、40歳以上、1年に1回の実施も可とされています。

※5 HPV検査単独法については、実施自治体が少ないため、記載を省略しています。

出典：厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」、厚生労働省「職域におけるがん検診に関するマニュアル」



このリーフレットは、がん検診受診率向上＜希望の虹プロジェクト＞が作成しました。

近年、日本人男性の **62.1%** 日本人女性の **48.9%** が、がんになると言われています^{※1}。



男性では、2人に1人から、3人に2人に近づいています。

男性の方へ

40代



がんは近年、**40代男性の死亡原因の1位** または**2位**となっています。

がんは高齢者だけの病気ではありません。
40代はがんが増え始めるため、
検診によって早期発見することが大切です。

40代男性の死亡者数
ワースト5 (2023年)^{※2}

1位	自殺	2,594人
2位	がん	2,397人
3位	心疾患	1,814人
4位	脳血管疾患	1,131人
5位	肝疾患	870人

あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診 (なりやすいがん順)^{※1}

- 1 大腸がん
- 2 胃がん
- 3 肺がん

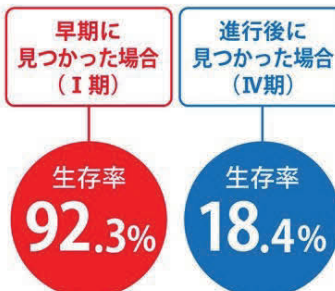
50代



50代はそろそろ“がん年齢”。
でも、定期的な検診受診で、**自覚症状**が出る前に
がんは**早期に発見**できます。

大腸がん・胃がん・肺がんは、早期発見によって80%以上が
治ります^{※3}。

発見時期による5年生存率
〈大腸がん(男女)の場合〉^{※3}



あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診 (なりやすいがん順)^{※1}

- 1 大腸がん
- 2 肺がん
- 3 胃がん

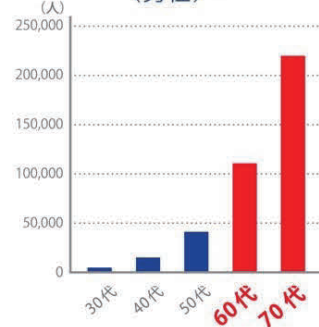
60歳以上



60歳を過ぎると、がんになる人は**激増**。
毎年、**約11万人の60代男性が**、がんになっ
ています^{※1}。

早期のうちは自覚症状がないため、検診を受けないと
見つけれません。だからこそ、検診による早期発見が大切。

年代別がんになる人の数
(男性)^{※1}



あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診 (なりやすいがん順)^{※1}

- 1 肺がん
- 2 大腸がん
- 3 胃がん

女性の方へ

20代
~30代



20歳を過ぎたら年に一度、
必ず**子宮頸がん検診**を受診して下さい。

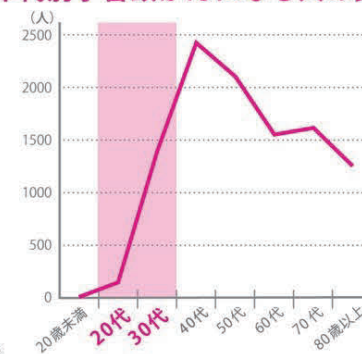
「まだがん検診は関係ない」そう思いませんか？

子宮頸がんは、20代後半以降から増えるがんです。ただ、早期のうちに治療すれば、
90%以上が治ります^{※3}。

でも、早期の段階では自覚症状がないため、検診を受けないと見つけれません。

子宮頸がん検診は、あなたの**命**と**子宮**を守るための検診です。

年代別子宮頸がんになる人の数^{※1}

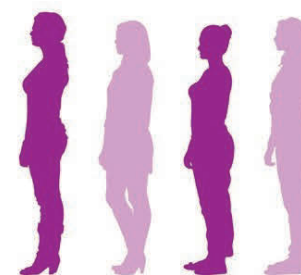


40代



40代女性の約**2人に1人**が、**乳がん検診**を受診
しています。でも、乳がんの他にも気をつけな
ければいけない**がん**があるのをご存じですか？

子宮頸がん・大腸がん・胃がん・肺がんといった、乳がん以外の
がんにも、毎年約7千人の40代の女性がなっています^{※1}。



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診 (なりやすいがん順)^{※1}

- 1 乳がん
- 2 大腸がん
- 3 子宮頸がん
- 4 胃がん
- 5 肺がん

50代



50代は、女性の身体が大きく変わる年代。
がんで死亡する人の数も大きく**増加**します。

乳がん・大腸がん・胃がん・肺がん・子宮頸がんといったがんは、
早期発見で80%以上が治ります^{※3}。しかし、早期のう
ちは自覚症状がないため、検診を受けないと見つけれません。

左記の5つのがんによる
50代女性の死亡者数^{※2}

計 5,000人以上



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診 (なりやすいがん順)^{※1}

- 1 乳がん
- 2 大腸がん
- 3 肺がん
- 4 子宮頸がん
- 5 胃がん

60歳以上

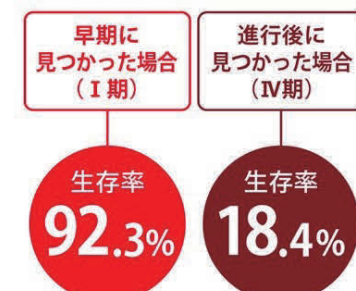


がんになったら治らない、そう思いませんか？
がん検診をすべての対象者が正しく受けると、
毎年日本全国で約**6万7千人の命**が救われます^{※4}。

(ここであらゆるがん検診とは、推奨されている以下の5つの検診を指します)

女性になりやすい5つのがんは、検診による早期発見で
80%以上が治ります^{※3}。

発見時期による5年生存率
〈大腸がん(男女)の場合〉^{※3}



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診 (なりやすいがん順)^{※1}

- 1 大腸がん
- 2 乳がん
- 3 肺がん
- 4 胃がん
- 5 子宮頸がん

※1 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」全国がん登録 (2021 年診断例)

※2 人口動態統計 (2023 年)

※3 ここであらゆる「生存率」「治ります」とは、診断時からの5年純生存率 (ネット・サバイバル) です。純生存率は、「対象となるがんのみが死因となる場合」を推計した生存率です。院内がん登録生存率集計報告書においても2014-2015年5年生存率から、相対生存率に代わりこの方法による純生存率が採用されています。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録生存率集計」(2015 年診断例) 5 年ネット・サバイバル

※4 がん検診受診率向上＜希望の虹プロジェクト＞による推計値